

安全データシート

作成日 2009年3月30日

改訂日 2025年2月24日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称

K-150

会社名

アーク株式会社

住所

大阪府中央区安土町3-5-13 本町ガーデンシティテラス 3階

電話番号

06-6563-7710

FAX番号

06-6563-7720

推奨用途及び使用上の制限

塗料・ポリマー・繊維処理剤の原料、燃料添加剤の溶剤、腐食防止剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類 JIS Z 7252、7253:2019 使用

物理化学的危険性

引火性液体

区分3

健康に対する有害性

皮膚腐食性・刺激性

区分2

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

区分2B

皮膚感作性

区分1

発がん性

区分2

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

区分3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

区分1(血液、眼、呼吸器)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

区分1(血液、眼、呼吸器)

誤えん有害性

区分1

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性)

区分1

水生環境有害性 長期(慢性)

区分1

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

可燃性液体

皮膚刺激

強い眼刺激

眠気やめまいのおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

裸火や高温のものから遠ざけること。ー禁煙。

取扱い後はよく手を洗うこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

適切な保護手袋を着用すること。

適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。

ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

火災の場合には、適切な消火方法をとること。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

吸入した場合、気分が悪い時は医師に連絡すること。

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

漏出物は回収すること。

【保管】

換気の良い冷所で保管すること。

施錠して保管すること。

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 成分名

混合品

CAS番号

官報公示整理番号

含有量 (wt%)

Solvent Naphtha, Heavy
aroma

64742-94-5

9-1694

100

上記内 Naphthalene

91-20-3

4-311

1.0-5.0

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。

水と石鹼で洗うこと。

目に入った場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症

データなし

最も重要な兆候及び症状

データなし

応急措置をする者の保護

データなし

医師に対する特別注意事項

データなし

5. 火災時の措置

消火剤

泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。

消火後再び発火するおそれがある。

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

容器が熱に晒されているときは、移さない。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護		適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置		
人体に対する注意事項、保護具および緊急措置		全ての着火源を取り除く。
		直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 環境中に放出してはならない。 不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学 品廃棄容器に入れる。
環境に対する注意事項 回収・中和		
封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策		危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の 禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意		
取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具 を着用する。
	局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行 う。
	安全取扱い注意事項	消防法の規制に従う。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 環境への放出を避けること。
保管	接触回避 技術的対策 混触危険物質 保管条件	データなし 消防法の規制に従う。 データなし 容器を密閉して冷乾所で保管すること。 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 施錠して保管すること。
	容器包装材料	データなし
8. ばく露防止及び保護措置		
管理濃度		未設定
許容濃度(ばく露限界値、生物学的 ばく露指標)		
	日本産衛学会(2007年 ACGIH(2007年版)	未設定 未設定
設備対策		この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを 設置すること。
保護具	呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。 適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。
衛生対策		取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
9. 物理的及び化学的性質		

物理的状態、色	無色透明液体
臭い	特有の臭気
pH	データなし
融点・凝固点	<-10°C
沸点、初留点及び沸騰範囲	180-215°C
引火点	58~65°C (closed cup) : IUCLID (2000)
自然発火温度	200~550°C : IUCLID (2000)
燃焼性(固体、ガス)	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	約0.07~1.6hPa (20°C) : IUCLID (2000)
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
比重(密度)	0.8985g/cm ³ (15.5°C) : IUCLID (2000)
溶解度	水 : <1mg/l (20°C) : IUCLID (2000)
オクタノール・水分配係数	log P = 2.9~6.1 : IUCLID (2000)
分解温度	データなし
粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率(導電率)	データなし
10. 安定性及び反応性	
安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし
11. 有害性情報	
急性毒性 経口	炭化水素類 ラット LD50: 2050mg/kg, 6900mg/kg(雄), 4700mg/kg(雌) (Diethylbenzene stream)
	ナフタレン ラット LD50: 490mg/kg (Patty (5th, 2001)), 約 1800mg/kg (ACGIH (7th, 2001)), 1780mg/kg (DFGOT vol.11 (1998)), 9430mg/kg (DFGOT vol.11 (1998)), NTP TR500 (2000)), 1110mg/kg (DFGOT vol.11 (1998)), NTP TR500 (2000)), 2300 mg/kg (EU RAR (2003)), >2000mg/kg (EU RAR (2003)), 2600mg/kg (ATSDR (2003))
	以上より、区分に該当しない
経皮	炭化水素類 ウサギ LD50: 4100mg/kg (IUCLID(2000)), >3160mg/kg (EHC20(1982))
	ナフタレン ラット LD50:>2500mg/kg (NTP TR500(2000)), ウサギ LD50:>2000mg/kg (EU RAR(2003))
	以上より、区分に該当しない。
吸入(蒸気)	炭化水素類 ラット 11mg/L/4h 15例中1例が死亡 (EHC 187(1996)、ACGIH(7th. 2001)、ATSDR(1995)), ラット lc0: 5.5mg/L/4hEHC 187(1996))
	ナフタレン ラット lc50: >0.7mg/L/4h (NTP TR500(2000))
	以上より、区分に該当しない。
皮膚腐食性・刺激性	炭化水素類 区分2 皮膚刺激
	ナフタレン 区分3 軽度な皮膚刺激
	以上より、区分2
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ナフタレン 区分2B 眼刺激

呼吸器感作性又は皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性	ナフタレン 区分1 アレルギー性皮膚炎を起こすおそれ ナフタレン 区分に該当しない ナフタレン 区分2 発がんのおそれの疑い。 炭化水素類 分類できない。 ナフタレン 分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	炭化水素類 区分3 気道刺激性。麻酔作用。 ナフタレン 区分1 臓器(血液、眼、呼吸器)の障害。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	炭化水素類 分類できない ナフタレン 区分1 長期にわたる、または反復ばく露による臓器(血液、眼、呼吸器)の障害。
誤えん有害性	炭化水素類 区分1 飲み込み、気道に侵入すると生命の危険のおそれ。
12. 環境影響情報	
水生環境有害性 短期(急性)	炭化水素類 甲殻類:0.95mg/L、藻類・魚類:なし(NITE) ナフタレン 魚類(ニジマス) LC50:0.77mg/L/96h、 甲殻類・藻類:なし 以上より、区分1 水生生物に非常に強い毒性。
水生環境有害性 長期(慢性)	炭化水素類 潜在的蓄積性を有する。急性毒性区分1であり、急速分解性を示すデータが無い。 ナフタレン 急性毒性が区分1、生物蓄積性が低い(BCF=168(既存化学物質安全性点検データ)) 急速分解性が無い(BODによる分解度:2%(既存化学物質安全性点検データ)) 以上より、区分1 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性。
残留性・分解性 生体蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性	情報なし。 情報なし。 情報なし。 構成物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
汚染容器及び包装	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国際規制 海上規制情報 航空規制情報	IMOの規定に従う。 UN No.3082 Class:9 Packing Group:Ⅲ IMOの規定に従う。 UN No.3082 Class:9 Packing Group:Ⅲ
国内規制 陸上規制情報 海上規制情報 航空規制情報	消防法の規制に従う。道路法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 国連番号:3082 クラス:9 容器等級:Ⅲ 航空法の規定に従う。 国連番号:3082 クラス:9 容器等級:Ⅲ
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

緊急時応急措置指針番号

重量物を上積みしない。
171

15. 適用法令
労働安全衛生法

第57条第1項 名称等を表示すべき有害物
第57条第2項 名称等を通知すべき有害物
(石油ナフサ)令別表第9の330(令和7年4月1日より)規則別表第2
(ナフタレン)令別表第9の408(令和7年4月1日より)規則別表第2
第57条第3項 危険性又は有害性等を調査すべき物(鉱油、ナフタ
レン)

皮膚等障害化学物質等(ナフタレン)

特定化学物質第2墨物質(ナフタレン)

作業環境評価基準(法第65条の2第1項)(ナフタレン)

強い変異原性が認められた化学物質等(ナフタレン)

消防法

第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体(法第2条第7項危
険物別表第1・第4類)危険等級Ⅲ

化審法

優先評価化学物質(ナフタレン 政令番号76)

化学物質排出把握管理促進補
(PRTR法)

第1種指定化学物質(ナフタレン No.302)

16. その他の情報
参考文献

各データ毎に記載した。